

伝えたい想いを込めたチラシが完成しました

一生徒たちの手書きのメッセージを添えて、広報ちの仕様にしてもらいました！

みんなで守ろう、あなたの未来と家族の笑顔

みんなで未来を守っていきましょう!

早期発見して命を守りましょう

名取未羽

矢澤芽生

大腸がんは、早期に見つかれば治る可能性が高くなります。まずは簡単な検診から始めてみませんか。

茅野市民限定! 大腸がん検診の追加実施を行います

令和7年11月～令和8年1月

茅野市

CHINO
まんかに愛のあるまち

TOKAI UNIVERSITY SUWA SENIOR HIGH SCHOOL

Aflac

生きる」を創る。

40歳を過ぎたら年1回の便潜血検査を習慣にし、早期発見のチャンスを広げましょう。

みんなで守ろう、あなたの未来と家族の笑顔

—— 高校生が大腸がん検診の啓発活動を実施！ ——

茅野市は、大腸がん検診の受診率が県内でも低い水準にあり、改善が求められています。こうした課題に対応するため、市・高校・医療機関・民間企業が連携し、受診率向上を目指すプロジェクトが進行中です。その一環として、東海大学付属諏訪高等学校（通称：東海）の「理数探究」の授業内で、「地域の大腸がん検診受診啓発」に興味を持った生徒たちが、早期検診の重要性を学び、健診の重要性を伝えるために、様々な働きかけを実践しています。

東海生の取り組みと学び

アンケートを実施

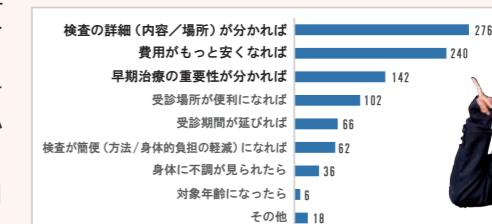
生徒の親や祖父母、教員の方々などを対象に、大腸がん検診の受診経験や未受診の理由、大腸がん検診受診の動機などについてアンケートを実施し、約350人程の回答データを収集しました。

アンケートの結果、がん検診が「健康な人を対象としたもの」と認知されていないことや、検査方法が誤認されている懸念があることがわかりました。

一方で、受診の動機に関しては、「検査の詳細」、「早期治療の重要性」が分かれると回答する方が多く、啓発活動の重要性が見て取れます。

大腸がん検診＝「内視鏡検査」をイメージされる方もいますが、国が推奨している方法は「便潜血検査」です！
便潜血検査ならご自宅で受けることができ、時間や費用の負担も少なく検査可能です！

どうなれば大腸がん検診を受けようと思いますか（複数回答）



専門家やがん経験者の方にヒアリングを実施

市の担当者や厚生労働省の職員、諏訪中央病院の医療従事者の方へのヒアリングを実施し、アンケート結果から生まれた疑問点の解消や、がん検診に対する現状の課題を把握しました。また、がん経験者の方から、リアルな体験談を聞くことで、がん経験者への共感を育み、より具体的で効果的な啓発策を考えるきっかけとしました。

東海生が行う啓発活動

チラシ・ポスターの作成

生徒が伝えたい情報やデザインのイメージ、キャッチコピーを基にチラシ・ポスターを作成しました。大腸がん検診について学んできた生徒の想いが伝わるものとなっています。（左ページに掲載）

特設サイトは
こちらから



茅野市どっとネットの特設ページ開設

「茅野市どっとネット」では、暮らしに役立つ情報や市民の声を活かしたコンテンツを発信しています。

今回は、東海生が地域の課題に向き合い、自分たちの言葉やデザインで発信することで、温かみを持った情報を発信しています！



Interview

市内中学生から啓発の輪を広げる

市内中学校で、東海の理数探究情報班 授業担当の皆さんとがん経験者による授業を実施しました。授業では、「命の大切さ」や「早期発見・早期治療により、人生の選択肢が増える」というメッセージを伝えるとともに、授業を聞いた中学生が当日の感想を「手紙」として大切な人に渡す取り組みを通じ、がん検診への意識向上につなげました。



東海の理数探究情報班 広報担当の皆さん
左から:矢澤芽生さん、名取未羽さん、
アルダンけれんさん、名取夏美さん

この事業に参加したきっかけは、それぞれですが、地域の方々と一緒に協力して、がん検診の受診率向上に取り組めるのは貴重な経験だと思っています。

大腸がんは、他のがんと比べて、早期発見・早期治療すれば治る可能性が高いため、もっと検診の大切さを伝えたいと思っています。

一方で、アンケート結果から、便潜血検査の存在を知らない方が多いとわかりました。実際に、(大腸がん検査は)安価で簡単にできる点は、検診を勧めやすい要素になると思います。大腸がんの初期は痛みがないので、具合が悪くなつてから病院に行くのではなく、大切な人の時間のことを考えて、その時間を守るために、身の周りの方から検診の輪を広げていただき、ぜひ定期的な検診を受けてほしいです。